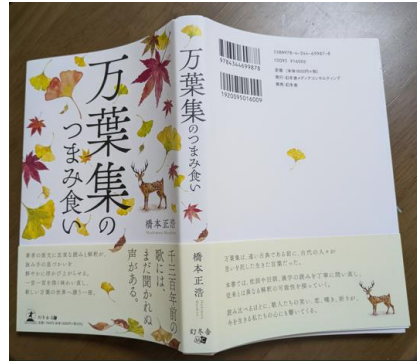


新刊紹介

千三百年前の歌には、まだ聞かれぬ声がある!!

万葉集は、遠い古典である前に、古代の人々が思いを託した生きた言葉だった。著者は、本書で、枕詞や旧訓、漢字の読みを丁寧に問い直し、従来とは異なる解釈の可能性を探り、歌人たちの笑い、恋、嘆き、祈りが、今を生きる私たちの心にも響いてくる、と説いて、新しい万葉の世界へ誘う一冊である。



◎著者紹介

橋本正浩（はしもと まさひろ）

1942年 東京生まれ

東京古田会（古田武彦と古代史を研究する会）会員

発行：幻冬舎メディアコンサルティング

発売：幻冬舎

なんと

『楠都』（万日山の誓い・熊本之光と影の青春） 第一巻～第六巻

◎著者：森山光成 ◎各巻1300円から1800円 ネットに各種情報あり

熊本で成長した青年の魂の軌跡、人生と芸術、愛と性を描く著者渾身の長編小説全六巻
なんと第六巻では66ページにわたり「日本の古代史」と題して東日流外三群誌関係の記述、安日彦、長髓彦、アラハバキ神、山靡堆国、耶摩馬台国、佐怒の命の東征、東日流王国の成立など多方面の考査が記されている。安彦氏や藤本氏・竹田氏・玉川氏にも言及。

著者は上田昭夫氏（東京古田会・会員 那須塩原市在住）のペンネーム。

かねてより大作を執筆中ときく。その正体が判明した。人間の根源を描き切りたいと、引き続、中年編にも着手、次の物語偏『楠都』は最初英語➡仏・独・伊・韓国語等に翻訳。ナレーション版、Kindle版、漫画化を準備中。新版の、長いまま“筋の流れを重視した物語偏”は、秋には出版予定。在米の最終翻訳監修者も決定。題名は由来は「熊本県の木・クスノキ」。五月、この地方に生い茂る 楠の花の香り流れる熊本を「楠都・クスノキの都」と命名した秀彬です。秀彬の臨死体験、麗しい 女性達との愛の姿、“万日山の誓い”の人生。全編を読み切るには少々視力、体力がいるかもしれませんが『楠都』のが世界を覗いて見てください。

